



Title	加藤 均教授主要研究業績一覧
Author(s)	
Citation	日本語・日本文化. 2024, 51, p. 5-9
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95210
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



加藤 均 教授

加藤 均教授主要研究業績一覧

【論文（単著）】

- 「vicaraとsamvrtimatraの関係性について」（『大谷大学大学院研究紀要』第6号、1989年12月）
- 「中觀派に於けるvicaraの実践的意味 —チャンドラキールティの場合—」（『印度学仏教学研究』第38巻第2号、1990年3月）
- 「現代社会における水子供養の諸相 —近年の英文研究業績に關連して—」（『日本語・日本文化』第18号、1992年3月）
- 「現代哲学と中觀思想の接点 —C.W. ハンティントン氏の方法論をめぐって—」（『大谷大学真宗総合研究所研究紀要』第10号、1993年3月）
- 「留学生を対象とした『日本の宗教』に関する授業の一例」（『日本語・日本文化』第19号、1993年3月）
- 「prapancaとvyavaharaの関連性をめぐって —Candrakirtiの所論を中心として—」（『印度学仏教学研究』第43巻第1号、1994年12月）
- 「仏教文献学における諸問題 —Gregory Schopenの批判をめぐって—」（『日本語・日本文化』第23号、1997年3月）
- 『入中論』第6章にみられるyoginについて」（『大阪外国語大学論集』第17号、1997年9月）
- 「文系学部留学生（日本語上級）を対象とした日本事情教育の一事例」（大阪外国語大学留学生日本語教育センター編『留学生センターにおける教育活動』、2001年3月）
- 「仏教思想における言語論 —ナーガールジュナと親鸞—」（The Korosi Csoma Society編 *The JAPANOLOGY –Research, Education, Popularization*、2002年3月）
- 「エラスムス計画下における日本研究拠点大学と日本の大学との教育連携の可能性」（『平成15年度文部科学省新世紀国際教育交流プロジェクト報告書』、2004年3月）
- 「『因果物語』に見られる鈴木正三の仏教倫理 —正三の一向宗批判に着目して—」（『タイ国日本研究国際シンポジウム2007 論文報告集』、2008年3月）

- ・『『因果物語』に見られる鈴木正三の神仏習合觀』(『アジア・オセアニア地域における多文化共生社会と日本語教育・日本研究』、2009年5月)
- ・「国費学部留学生予備教育における日本事情科目の学習項目について」(『授業研究』第8号、2010年3月)
- ・「近世日本における佛教者のキリスト教理解 一鈴木正三『破吉利支丹』をめぐってー」(『タイ国日本研究国際シンポジウム2010 論文報告書』、2011年9月)
- ・「日本人論と佛教 一山本七平の鈴木正三論をめぐってー」(『日本語・日本文化』第38号、2012年3月)
- ・「近世日本における佛教者のキリスト教理解 一鈴木正三と雪窓宗雀の排耶書比較を中心にしてー」(『日本語・日本文化』第40号、2013年3月)
- ・「仏像から日本の宗教文化を考える」(『日本研究論集』13号、2016年4月)
- ・「日常佛教語が描き出すもう一つの日本」(JNU Centre of Japanese Studies編 *Interlinking Linguistics and Literature: A tool to read Japanese literary texts*、2018年9月)
- ・「留学生受入れ部局から見た大学のグローバル化促進事業 ーその現実的対応ー」(『平成30年度 グローバル教育に関する有識者懇談会報告書』、2019年3月)

【論文（共著）】

- ・「日本語教育実習における遠隔授業見学の有効性と課題」(『授業研究』第17号、2019年3月)
- ・「ニューノーマル時代における留学生教育の課題と展望 ー大阪大学日本語日本文化教育センターを事例としてー」(jsn Journal 11(1)、2021年3月)
- ・「日本留学に対する不安軽減を目的とした動画の評価と有用性 ー留学生と受入側事務職員双方への調査をもとにー」(『授業研究』第21号、2023年3月)

【書評論文（単著）】

- H. Sakuma: *Die Asrayaparivrtti-theorie in der Yogacarabhumi* (『仏教学セミナー』第54号、1991年3月)
- Peter Fenner: *The Ontology of the Middle Way* (『仏教学セミナー』第56号、1992年4月)
- S. Ichimura: *Buddhist Critical Spirituality: Prajna and Sunyata* (Nagoya Studies in Indian Culture and Buddhism: Sambhava 24、2004年3月)

【教科書（共著）】

- 『新読みの練習』(大阪外国語大学留学生日本語教育センター刊、1997年3月)
- 『学部留学生のための日本事情 I』(大阪外国語大学日本語教材叢書 No. 42、2003年3月)

【報告・目録等】

- *Bibliography of Foreign Language Articles on Japanese Buddhism* (『大谷大学真宗総合研究所研究紀要』第6号、1988年3月)
- *Bibliography of Foreign Language Articles on Japanese Buddhism: Supplement 1960-1989* (『大谷大学真宗総合研究所研究紀要』第8号、1990年3月)
- 「ローマ大学における第16回国際宗教史学会に参加して」(『大谷大学真宗総合研究所研究所報』第26号、1991年1月)
- 『大谷大学真宗総合研究所国際仏教研究班収集 欧文雑誌目録』(大谷大学真宗総合研究所刊、1992年3月)
- 「真宗研究と今日のアメリカ(Shin Buddhist Studies and America Today)」(大谷大学真宗総合研究所編『海外における仏教研究の方法と課題』、1993年12月)
- 『基礎語彙調査 中間報告』(大阪外国語大学留学生日本語教育センター刊、1994年12月)
- 「日本文化論授業報告」(大阪外国語大学留学生日本語教育センター編『留学生日本語教育センターにおける教育活動の点検・評価』、1999年3月)

【国際研究集会講演】

- “Revitalizing Buddhism Inoue Enryō’s Classification of Teachings (Kyōsō-hanjaku)” (USC International Conference on Buddhist Futures: Conceptions of Modernity and Temporality in Modern Japanese Buddhism, University of Southern California, 2012年11月)
- “Inoue Enryō’s Reinterpretation of Buddhism in Modern Japan” (UAM International Conference “Via Japan: Japan-imprinted discourses”, Autonomous University of Madrid, 2013年10月)
- 「近代日本における「通仏教」化の試み 一井上円了の思想展開を中心として—」(タイ国日本研究国際シンポジウム2014, チュラーロンコーン大学、2014年8月)
- “Reconstruction of Buddhism in Modern Japan” (Japan: Pre-Modern, Modern, Contemporary, “Dimitrie Cantemir” Christian University, 2014年9月)
- 「江戸初期の仏教僧たちはどのようにキリスト教を理解し批判したのか」(第5回国際日本学研究シンポジウム、ブカレスト大学、2015年3月)
- “Teaching Japanese Studies Courses in Japanese to International Students” (The Second Annual Symposium, “Japan in the World and the World in Japan: A Methodological Approach”, Otemae University, 2016年12月)
- 「ニューノーマル時代における留学生受入れの課題と展望 一大阪大学を事例として—」(タイ国日本研究協会(JSAT)第17回全国会議、タマサート大学、2020年10月)
- 「日本仏教における「行」の意味を考える 一留学生教育の現場に求められる日本研究の一事例として—」(第4回国際シンポジウム「日本語教育と日本研究～世界の潮流とベトナムの実践」、ハノイ大学、2023年10月)